

定跡裏街道

松田基弘



陽動

振り飛車編

定跡党必読の一冊 → ライバルに差をつける

極秘の新戦法 第二弾

将棋の面白さの一つは、見たこともない面白い戦法を利用して相手を驚かせることができることにあると思います。将棋には今でも様々な戦法がありますが、まだまだ知られていない面白い戦法がたくさんあります。そういった定跡の裏街道を行くような面白い戦法を多くの人が知らないまま眠らせておくのもったいない事です。筆者自身そのような戦法の幅を広げてくれるような定跡書が常々欲しかったため、今回自ら筆を取り書籍化をしました。

本書で採り上げる内容は、陽動振り飛車です。陽動振り飛車は矢倉模様の将棋での変化球というイメージが強いですが、序盤からリードを狙える非常に有力な戦法です。そして陽動振り飛車は矢倉だけではありません。本書では矢倉だけでなく、角換わり、角道クローズ型、さらには滅多に見慣れない形も紹介します。紹介する戦法はいずれも変化球としてではなく、序盤から積極的にポイントを稼ぐ事を目指したもので、居飛車党にとっても振り飛車党にとっても有用な一冊ではないでしょうか。

筆者の瑣末な研究に基づくもので完璧ではないかも知れませんが、初心者の方から高段者の方まで通用する戦法を取り上げたつもりです。幅広い読者の方に戦法紹介書として楽しんで頂ければと思います。この書籍を通じて面白い戦法を求めている将棋ファンの皆様に、少しでも役に立てたら幸いです。

目次

第1章 一手損角換わり

概論……………5

裏魔界三間飛車……………14

モノレール向飛車……………29

裏立石……………53

第2章 矢倉

概論……………83

陽動石田……………86

裏陽動三間飛車……………105

様々な陽動振り飛車……………119

① ◻4 四歩型四間飛車

② ◻4 四歩型三間飛車

③ ◻5 三銀・◻4 四銀型三間飛車

④ ◻5 三銀・◻4 四歩型三間飛車

⑤ ◻5 三銀型三間飛車・▲6 五歩急戦

第3章 角道クローズ型

概論……………158

陽動右玉……………165

第4章 その他の戦型

◻3 三飛戦法……………192

横歩取りひねり飛車……………204

第1章

一手損角換わり

概論

一手損角換わりには様々な形がある。A図は初手からまだ3手しか進んでいないが、一手損角換わりにおける最初の分岐点である。

近年プロ間ではここで△8八角成とする指し

【A図は▲2六歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	▲
二		飛						角		▲
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	▲
四							歩			▲
五										▲
六			歩					歩		▲
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	▲
八		角						飛		▲
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	▲

▲先手 なし

△後手 なし

方が増えているが、本節で紹介する形はすべて△3二金(B図)である。△8八角成が増えた背景には、△3二金の一手を他の手に回したほうが一手損角換わりになった際にも、振り飛車

【B図は△3二金まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王		銀	桂	香	▲
二		飛					金	角		▲
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	▲
四							歩			▲
五										▲
六			歩					歩		▲
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	▲
八		角						飛		▲
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	▲

▲先手 なし

△後手 なし

になった際にも得ではないか、という考えがあるように見受けられる。一手損角換わりの△3二金型に対する決定打は未だ出ていないが、振り飛車に変化するのであれば△3二金が不急の一手である事は間違いない。仮に角交換四間飛車（C図）や角交換向飛車（D図）を含みにするのであれば、確かに△3二金は不要だ。

▲先手 角

【C図は△7二玉まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金		金		桂	香	一
二			王			飛				二
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	銀	歩	歩	三
四							歩			四
五										五
六			歩					歩		六
七	歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩		歩	七
八			玉			銀		飛		八
九	香	桂		金		金		桂	香	九

毎
手
差
△

【D図は△2二飛まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金		桂	香	一
二								飛		二
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	銀	歩	歩	三
四							歩			四
五										五
六			歩					歩		六
七	歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩		歩	七
八						銀		飛		八
九	香	桂		金	玉	金		桂	香	九

毎
手
差
△

▲先手 角

しかしそれでも著者が△3二金型を推奨するのは、①先手にもう一手指させて形を決めさせたい点。②C図、D図の知名度が高く対策されやすいという実戦的観点。③C図、D図よりも陽動作戦が採りやすい点の3つの理由があるからである。△3二金は陽動振り飛車党にとって好都合の手なのだ。

B図からの進行には、大まかに言って▲2五歩(E図)と▲7八金(F図)がある。プロ間では一手損角換わりを明確に答める意味からE図が近年流行だが、アマ間ではF図も意外と頻度の高い進行である。

このE図、F図をどう答めるかが本節の焦点である。まずE図では先手の▲2五歩型を答め

【E図は▲2五歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王		銀	桂	香	
二		飛					金	角		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五								歩		
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	
八		角						飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

▲先手 なし

□後手 なし

【F図は▲7八金まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王		銀	桂	香	
二		飛					金	角		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五								歩		
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	
八		角	金					飛		
九	香	桂	銀		玉	金	銀	桂	香	

▲先手 なし

□後手 なし

る事が最大の目標。□3三角として阪田流と呼ばれる形で答めに行くのが明快な手段である。□3三角には▲3三角成が最も自然な手で、□同金と取らせた形(次頁・G図)が不安定であるというのが先手の主張だ。しかし後手は、G図から後手は向飛車にする事で▲2五歩型の伸び過ぎを答めにいく狙いがある。

G図から△2二飛とする形は阪田流向飛車と呼ばれる。故阪田三吉の代名詞でもあるが、その原型は金親盤治著「金親駒組集」に記されており、江戸時代から存在する戦法のようなだ。

阪田流向飛車には様々な形があるが、最初期の棋譜は△7二玉型で△2四歩（H図）と仕掛けている。以後様々な改良が加えられ、居玉や

【G図は△3三同金まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
毎	香	桂	銀	金	王		銀	桂	香	一
手		飛								二
後	歩	歩	歩	歩	歩	歩	△	歩	歩	三
△							歩			四
								歩		五
			歩							六
	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
								飛		八
	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

▲先手
▲角

【H図は△2四歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
毎	香	桂	銀	金			銀	桂	香	一
手			王					飛		二
後	歩	歩	歩	歩	歩	歩	△	歩	歩	三
△							歩			四
								歩		五
			歩							六
	歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩		歩	七
				玉			銀	飛		八
	香	桂		金		金		桂	香	九

▲先手
▲角

△5二玉型で仕掛ける小林健二九段の構想（書籍「振り飛車奇襲戦法（2）」）や、木屋太二氏の自陣角を狙う構想（書籍「超阪田流角命戦法」）、筋違い角を狙う構想（書籍「痛快！ワンダー戦法」より抜粋）など、様々な構想が登場した。しかしいずれも玉形が薄い将棋になるためか、ブームには至らなかった。

しかし阪田流向飛車は、二〇〇九年に再び脚光を浴びる事になった。その火付け役となったのがI図である。I図は従来の形と異なり後手も強い戦いができるため、様々な新構想が生まれた。I図は本書を執筆した現在でもプロ間で指されている形であり、後手番戦法として有力な戦法の一つである。特にJ図は二〇一三年に

【I図は△7二銀まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
毎	香	桂		金				桂	香	一
手		王	銀			銀		飛		二
後	歩	歩	歩	歩	歩	歩	金	歩	歩	三
の							歩			四
形								歩		五
□			歩		歩	歩				六
	歩	歩		歩	歩				歩	七
		銀	玉				銀	飛		八
	香	桂		金		金		桂	香	九

▲先手 角

【J図は△3五歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
毎	香	桂		金				桂	香	一
手		王	銀			銀		飛		二
後	歩	歩	歩	歩	歩	歩		金	歩	三
の								歩		四
形							歩	歩		五
□			歩		歩	歩				六
	歩	歩		歩	歩	銀	桂		歩	七
		銀	玉				金	飛		八
	香	桂		金					香	九

▲先手 角歩

第39期女流名人位戦・上田初美―里見香奈でも登場し、興味の尽きない形である。

本書では阪田流向飛車は取り上げないが、▲2五歩型を咎める類似の新構想として(裏魔界三間飛車)を紹介する。また先手の駒組みを咎める訳ではないが、△4四歩と角道を閉じてしまうのも意表を突く指し方だ(裏立石)。

▲ 7八金型 (F図) も様々な対抗策があり、後手は振り飛車に変化すれば▲ 7八金が形を決め過ぎと主張する事ができる。先手は▲ 7八金とした事で居飛車穴熊にも組みにくいし、急戦も仕掛けにくいのだ。

そこで▲ 7八金には□ 4四歩 (K図) と角道を閉じて角道クローズ型振り飛車を狙う手が慣

▲先手 なし

【K図は□ 4四歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王		銀	桂	香	
二		飛					金	角		
三	歩	歩	歩	歩	歩			歩	歩	
四						歩	歩			
五										
六			歩					歩		
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	
八		角	金					飛		
九	香	桂	銀		玉	金	銀	桂	香	

□後手 なし

れ親しまれている。K図は同時に矢倉への切り替えも狙っており、先手が▲ 4八銀などとすれば□ 4二銀 (L図) とする。先手の飛車先不突矢倉を防ぎつつ自身も矢倉に組めるので、後手は不満のない将棋である。もつとも形勢としては互角。陽動振り飛車党であれば次頁以降で説明する対策のほうが目白いかも知れない。

▲先手 なし

【L図は□ 4二銀まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王			桂	香	
二		飛					銀	角		
三	歩	歩	歩	歩	歩			歩	歩	
四						歩	歩			
五										
六			歩					歩		
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	
八		角	金					飛		
九	香	桂	銀		玉	金	銀	桂	香	

□後手 なし

K図からは様々な振り飛車が考えられる。まずは網羅的に紹介してみよう。力戦になるためいずれも簡単な説明に留めるが、後手は四間飛車、三間飛車、中飛車、向飛車、すべてに変化がしやすいのが利点である。先手はそのすべてに対して対策を立てるのは難しいので、力戦党の方にはもってこいの戦型である。

【M図は△5二飛まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
△	香	桂	銀	金	王			桂	香	一
					飛	銀	金			二
△	歩	歩	歩	歩	歩		角	歩	歩	三
							歩			四
								歩		五
			歩							六
	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
		角	金				銀	飛		八
△	香	桂	銀	王		金		桂	香	九

▲先手 なし

【N図は▲6九玉まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	香	桂	銀	金	王		銀	桂	香	一
						飛	金			二
▲	歩	歩	歩	歩	歩		角	歩	歩	三
							歩	歩	歩	四
										五
			歩		歩					六
	歩	歩		歩	銀	歩	歩		歩	七
		角	金					飛		八
▲	香	桂	銀	王		金		桂	香	九

▲先手 なし

まず中飛車の場合は、シンプルにツノ銀中飛車（**M図**）にしても先手が居飛車穴熊には組みにくいいため、後手に不満はなさそうである。また四間飛車の場合は、立石流四間飛車（**N図**）にするのが有力である。N図には際立って大きな利点もないが、有力な形である事は間違いない。

三間飛車も有力である。特に先手が▲2五歩を保留し続けてきた場合には△3五歩△4三金(○図)の駒組みが面白そうである。○図でも▲2五歩として来なければ、△3二飛△3四飛から石田流を狙う。▲2五歩と突いてくれれば△3四金と受け、魔界四間飛車と呼ばれる奇襲戦法の形に落ち着く。ただし先手も▲7八金を

【○図は△4三金まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王		銀	桂	香	
二		飛						角		
三	歩	歩	歩	歩	歩	▲		歩	歩	
四						歩				
五							歩			
六			歩					歩		
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	
八		角	金			銀		飛		
九	香	桂	銀	玉		金		桂	香	

▲先手 なし

【P図は▲2五歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王		銀	桂	香	
二		飛						角		
三	歩	歩	歩	歩	歩	▲		歩	歩	
四						歩				
五							歩			
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	
八		角	金			銀		飛		
九	香	桂	銀		玉	金		桂	香	

▲先手 なし

型である事から有力な指し方であると思う。先手が○図の進行を嫌うなら△4三金の瞬間に▲2五歩(P図)とするだろう。しかしこの場合は△3三角△2二飛として向飛車に変化でき、これはこれで一局である。

このように▲7八金型に対しては陽動振り飛車が有力な対抗策なのである。

M〜P図の陽動振り飛車も後手にとっては有力な手段には違いないが、穏やかな力戦となるため、以降の進行は読者の感性に託そう。

今回取り上げるのはG図から▲2五歩□4二銀（Q図）の進行。先に述べたようにG図から後手は矢倉に組むのも有力な指し方で、先手がこれを咎めるには▲2五歩□3三角の交換を入

【再掲G図は□4四歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王		銀	桂	香	
二		飛					金	角		
三	歩	歩	歩	歩	歩			歩	歩	
四						歩	歩			
五										
六			歩					歩		
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	
八		角	金					飛		
九	香	桂	銀		玉	金	銀	桂	香	

▲先手 なし

しな
後手□

【Q図は□4二銀まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王			桂	香	
二		飛					銀	金	角	
三	歩	歩	歩	歩	歩			歩	歩	
四						歩	歩			
五								歩		
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	
八		角	金					飛		
九	香	桂	銀		玉	金	銀	桂	香	

▲先手 なし

しな
後手□

れるしかない。しかし□3三角に代えて□4二銀が成立し、そこで▲2四歩と仕掛けにくいのであれば、厳密には飛車先を突き越させた上に矢倉にできた後手が大満足の形であろう。

Q図は（モノレール向飛車）の節で詳述するが、Q図が成立するなら▲7八金型を明快に咎める對抗策の一つとなり得る。

裏魔界三間飛車

阪田流と見せかけて魔界流！

初手からの指し手

▲7六歩

△3四歩

▲2六歩

△3二金

▲2五歩

△3三角

▲同角成

△同金

▲3八銀

(基本図)

★攻撃力……C
★挑発度……B

★防御力……B
★意外性……A

裏魔界三間飛車（後手）は先手番でも後手番

でも利用できる戦法だが、後手番で利用しやす
いだろう。前書「定跡裏街道」角交換振り飛車
編」で紹介した魔界三間飛車の新しい指し方
でもある。

本戦法は基本図のように阪田流向飛車とまっ
たく同じ出だしで始まる。阪田流向飛車も有力
な戦法であるが、有名であるが故に相手も十分
な対策を立てている可能性がある。

そこでおすすめするのが裏魔界三間飛車。阪
田流三間飛車を見せながら、先手の知らない形
に引きずり込める面白い戦法だ。

【基本図は▲3八銀まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
毎	香	桂	銀	金	王		銀	桂	香	一
		飛								二
後	歩	歩	歩	歩	歩	歩	金	歩	歩	三
手							歩			四
形								歩		五
□			歩							六
	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
							銀	飛		八
	香	桂	銀	金	玉	金		桂	香	九

▲先手
角

基本図以下の指し手

△3五歩！(第1図) ▲6八玉 △3二飛

(第2図)

◆本戦法の狙い△3五歩

基本図から△2二飛(参考図)とすれば阪田流向飛車。冒頭で述べたようにこれも一局の将

▲先手 角

【第1図は△3五歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
毎	香	桂	銀	金	王	銀	桂	香		一
手		飛								二
後	歩	歩	歩	歩	歩	歩	金	歩	歩	三
△										四
							歩	歩		五
			歩							六
	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
							銀	飛		八
	香	桂	銀	金	玉	金		桂	香	九

【参考図は△2二飛まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
毎	香	桂	銀	金	王	銀	桂	香		一
手								飛		二
後	歩	歩	歩	歩	歩	歩	金	歩	歩	三
△								歩		四
										五
			歩							六
	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
							銀	飛		八
	香	桂	銀	金	玉	金		桂	香	九

▲先手 角

棋だが、ここでは△3五歩(第1図)とするのが本戦法の骨子となる一手。

阪田流向飛車を予想して指していた相手は、いきなり意表を突かれるに違いない。△3五歩はすぐに咎める事ができないため、先手は▲6八玉と玉を囲うくらいだが、そこで△3二飛とするのが狙いの一手。

モノレール向飛車

消えた戦法？実は意外と有力？

初手からの指し手

▲7六歩

△3四歩

▲2六歩

△3二金

▲7八金

△4四歩

▲2五歩

△4二銀

(基本図)

モノレール向飛車(後手)は、佐藤康光王将が考案した指し方で、一手損角換わり▲7八金型から無理矢理に矢倉を目指す戦法だ。

モノレール向飛車は矢倉を最終目標とはしているものの、実際には完全な手将棋となるためややハードルの高い戦法である。しかし本戦法の目指す理想形を知ってしまうとつい指したくなる戦法でもある。

この戦法を使って優勢を築き、それを勝ちに繋げる事は実に面白く、指し応えのある戦法である。陽動振り飛車党の方は是非一度は使ってみてほしい戦法だ。

★攻撃力……C

★防御力……C

★挑発度……A

★意外性……A

▲先手 なし

【基本図は△4二銀まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王			桂	香		一
	飛				銀	金	角			二
	歩	歩	歩	歩			歩	歩		三
						歩				四
								歩		五
		歩								六
	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
		角	金					飛		八
香	桂	銀		玉	金	銀	桂	香		九

しな
主筋
□

裏立石

立石流の新戦略！

初手からの指し手

▲7六歩 ○3四歩 ▲2六歩 ○3二金

▲2五歩 ○4四歩！(基本図)

裏立石(後手)は、一手損角換わり▲2五歩型から○4四歩と角道を止めてしまい、矢倉を含みに立石流四間飛車を目指す指し方だ。

裏立石は基本図のようにいきなり2筋を無防備にする事で、先手にあえて仕掛けさせる。しかし先手が基本図から▲2四歩と仕掛けてくれば、既に裏立石の術中にハマっているという面白い戦法である。

ややハードルが高い戦法だが、裏立石は従来の立石流より得になる点も多い戦法だ。前節で紹介したモノレール向飛車とセットで利用できる戦法でもあり、後手番の幅を広げる事のできる新感覚戦法だ。

★攻撃力………B
★挑発度………B

★防御力………B
★意外性………B

【基本図は○4四歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王		銀	桂	香	一
二		飛					金	角		二
三		歩	歩	歩	歩			歩	歩	三
四						歩	歩			四
五								歩		五
六			歩							六
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
八		角						飛		八
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

▲先手 なし

第2章

矢倉

概論

矢倉は陽動振り飛車党にとって最も柔軟性に富んだ戦型で、後手は様々な陽動振り飛車がで
きる。矢倉には▲7七銀型(A図)と▲6六歩
(B図)があるが、▲7七銀型なら後手は石田

▲先手 なし

【A図は▲7七銀まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	金	桂	香
二		飛							角	
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
四		歩					歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
八		角							飛	
九	香	桂		金	玉	金	銀	桂	香	

□後手 なし

▲先手 なし

【B図は▲6六歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	金	桂	香
二		飛							角	
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
四		歩								
五										
六			歩	歩						
七	歩	歩			歩	歩	歩	歩	歩	歩
八		角		銀					飛	
九	香	桂		金	玉	金	銀	桂	香	

□後手 なし

流に組める利点がある(陽動石田)。▲6六歩
型は石田流には組めないものの、こちらも有力
な構想がたくさんある(既存の陽動振り飛車)
(裏陽動三間飛車)。

陽動石田 矢倉と見せかけて石田流!

初手からの指し手

7六歩 △3四歩 ▲2六歩 □4二飛
 ▲4八銀 □6二玉 ▲6八玉 □7二玉
 ▲7八玉 □8二玉 ▲2五歩 (基本図)

★攻撃力……B
★挑発度……C

★防御力……A
★意外性……C

陽動石田(後手)は基本図のような▲7七銀型の矢倉に対し、石田流に組み換える指し方であり、後手番でのみ利用できる戦法だ。

陽動石田は陽動振り飛車の原点と言える指し方で、五十年以上前からその原形となる将棋が指されている。しかし先手の急戦策により後手勝率が下がってしまった歴史があり、あまり着目されない戦法になっているのが現状である。

そこで今回は若干のアレンジを加え、後手も十分戦える戦法に仕立て直した陽動石田を紹介する。その優秀性を是非確認して頂きたい。

【基本図は▲7七銀まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香		一
	飛						角			二
	歩	歩	歩	歩	歩		歩			三
		歩								四
			歩							五
	歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩	歩	歩	六
		歩						飛		七
香	桂		金	玉	金	銀	桂	香		八
										九

▲先手 なし

しな 主後□

裏陽動三間飛車

陽動振り飛車の新構想！

初手からの指し手

▲ 7六歩

△ 3四歩

▲ 6六歩

△ 8四歩

▲ 6八銀

△ 6二銀

▲ 5六歩

(基本図)

★ 攻撃力………B

★ 防御力………B

★ 挑発度………C

★ 意外性………A

裏陽動三間飛車は基本図のような▲6六歩型の矢倉に対し三間飛車を目指す指し方であり、後手番でのみ利用できる戦法だ。

▲6六歩型の矢倉に対する陽動振り飛車には様々な形がある(次節参照)が、駒組みに際して様々な制約が掛かってしまったり、先手からの急戦の可能性が残ってしまうのが問題の一つである。

そこでおすすめなのが裏陽動三間飛車。本戦法を使えば既存の指し方より制約の少ない駒組みで陽動振り飛車ができる。非常に有力な指し方であるため、是非試してみたい。

【基本図は▲5六歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂		金	王	金	銀	桂	香	一
二		飛		銀				角		二
三		歩		歩	歩	歩		歩	歩	三
四		歩					歩			四
五										五
六			歩	歩	歩					六
七	歩	歩				歩	歩	歩	歩	七
八		角		銀				飛		八
九	香	桂		金	玉	金	銀	桂	香	九

しな 主筋

▲先手 なし

様々な陽動振り飛車

陽動振り飛車は生きている！

初手からの指し手

▲7六歩 □3四歩 ▲6六歩 □8四歩

▲6八銀 (基本図)

④ □5三銀・□4四歩型三間飛車
⑤ □5三銀型三間飛車・▲6五歩急戦

基本図のような▲6六歩型の矢倉に対しては様々な陽動振り飛車がある。近年プロ間での実戦例は少ないが、矢倉に対する陽動振り飛車は今でも有力な指し方である事は間違いない。

そこで今回は基本図から考えられる従来の陽動振り飛車(右記)を網羅的に紹介し、その優秀性を改めて問いたい。いずれも▲6六歩型を基本としているが、同様の構想は▲7七銀型にも応用できる。

- ① □4四歩型四間飛車
- ② □4四歩型三間飛車
- ③ □5三銀・□4四銀型三間飛車

【基本図は▲6八銀まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王	金	銀	金	桂	香	一
	飛							角		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
	歩						歩			四
			歩	歩						五
		歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	六
	歩	歩			歩	歩	歩	歩	歩	七
		角		銀				飛		八
香	桂		金	王	金	銀	桂	香		九

▲先手 なし

第3章

角道クローズ型

概論

本書で述べる角道クローズ型は、A図またはB図の事を指す。後手が角道クローズ型の振り飛車を指そうとすれば、必ず出現する局面だ。

A図、B図では陽動作戦を採るまでもなく居

【A図は▲4八銀まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	金	香	▲先手 なし
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩		角	歩	歩	
四						歩	歩			
五								歩		
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	
八		角				銀		飛		
九	香	桂	銀	金	王	金		桂	香	

▲先手 なし

【B図は▲5六歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	金	香	▲先手 なし
二		飛						角		
三	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩	
四						歩	歩			
五										
六			歩		歩			歩		
七	歩	歩		歩		歩	歩		歩	
八		角						飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

▲先手 なし

飛車対振り飛車の対抗形にできるため、後手は必ずしも陽動作戦を用いる必要はない。また両局面からの陽動作戦はなかなか難しく、陽動作戦自体をあまり推奨できない。しかしそれでも

陽動右玉

最近見ない右玉、しかし今でも有力

初手からの指し手

- ▲ 7六歩 □ 3四歩 ▲ 2六歩 □ 4四歩
- ▲ 2五歩 □ 3三角 ▲ 4八銀 □ 3二銀
- ▲ 6八玉 □ 6二銀 ▲ 5八金右 □ 6四歩
- ▲ 5六歩 □ 6三銀 ▲ 7八玉 □ 7四歩

(基本図)

陽動右玉（後手）は先手番でも後手番でも利用できる戦法だ。

基本図は後手が右玉を目指した際によくある進行。ここから右玉を目指しても一局だが、右玉を見せ手にして陽動作戦を採る作戦も、知られていない一方で非常に有力な指し方である。

今回紹介する陽動右玉は穏やかな展開を目指す右玉とは真逆で、序盤から積極的に攻めの姿勢を目指す戦法である。攻め好きの方にはおすすめの戦法だ。

【基本図は□7四歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂		金	王	金		桂	香		一
	飛					銀				二
歩	歩		銀	歩	歩	角	歩	歩		三
		歩	歩		歩					四
							歩			五
		歩		歩						六
歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩		七
	角	玉		金	銀		飛			八
香	桂	銀	金				桂	香		九

（先手）

▲先手 なし

★攻撃力……A

★挑発度……C

★防御力……B

★意外性……B

第4章

その他の戦型

3三飛戦法

石田流封じ返し秘策!

初手からの指し手

▲ 2六歩

□ 3四歩

▲ 2五歩

□ 3三角

▲ 7六歩 (基本図)

★ 攻撃力……C

★ 防御力……B

★ 挑発度……B

★ 意外性……A

□ 3三飛戦法(後手)は、先手が序盤早々に

▲ 2五歩を決めた基本図で利用できる戦法だ。

基本図はプロ間ではほとんど登場しない形だが、アマ間ではたまに見られる形。石田流や升田式石田流(以後、升田式)を得意にする人にとってはどうすれば良いか困ってしまう駒組みの一つだ。

しかし基本図からは本当に石田流や升田式には組めないのだろうか。そこで紹介するのが□ 3三飛戦法である。実は多少の条件はあるものの、基本図から升田式を目指す事はできる。なかなか有力な指し方であると思うので是非試してみたい。

【基本図は▲7六歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香		一
	飛									二
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	角	歩		三
							歩			四
			歩							五
										六
	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	七
		角					飛			八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香		九

▲ 先手 なし

しな 主勢 □

